

# 委員会等活動報告

## ●社会活動委員会北方海域技術研究委員会

### 技術士を中核とした 北の海のネットワークづくり

#### 1. はじめに

当研究委員会は、「北の海の持続的な開発を進めるための環境の保全と創造に努め、海域を取り巻く諸問題について調査研究を行い、議論を行う中から各方面への提言を行い、具現化を図ること」を目的として、2004年(平成16年度)に発足しました。そして、社会的要請に応じながら主たる研究テーマを設定し、技術士を中核とした産官学の連携によるネットワークを形成して活動を続け、今年で13年目を迎えました。

現在の会員は、日本技術士会会員58名、北海道本部会友30名、その他専門家39名の計129名を数えます。このように多様な会員のネットワークが当研究委員会の強みであります。

#### 2. 活動方針について

当研究委員会では、平成27年度から以下に示す新たな活動方針・活動内容を定めていますので、ここで、ご紹介します。

##### 〈背景と課題認識〉

IPCC AR5によると、海水温の上昇、海面の上昇、極端現象の拡大などの物理・化学的变化に加え、魚種・無脊椎動物の種の分布の移動や資源量の変化などのリスクが指摘されている。海洋環境の恒久的な変化は、沿岸域に展開している漁村や港湾の経済・社会活動にも大きなインパクトを与える可能性がある。

##### 〈活動方針〉

北海道周辺の海洋環境変化とそれによる沿岸社会へのインパクトに視点を置き、具体的に何が起きつつあるか、今後どのようなことに直面する可能性が

## 若林 隆 司(わかばやし たかし)

技術士(水産・建設部門)

北海道本部 幹事  
社会活動委員会  
北方海域技術研究委員会代表  
㈱アルファ水工コンサルタンツ



あるかについて知見を深め、成果を発信することを目指す。また上記に関して、より広範な視点をもって取組むとともに、広い分野からの会員および女性技術者の参加の拡大を図ることを目標とし活動する。

##### 〈活動内容〉

北海道の周りの海洋において、「①地球気候変動によってどのような変化が顕在化するか(海水温、海面、極限現象等)」、「②それによって海岸・港湾・漁港の災害リスクはどう変わるか」、「③水産有用魚種(捕獲漁業、養殖)にはどのような影響が出るか」を主題として講演会・勉強会等を開催し、その成果を整理して、エンジニアの立場から、同じくエンジニアおよび沿岸防災に関わる関係者、港湾・水産関係者などに向けて、わかりやすい情報を発信する。

#### 3. 北方海域の未来へ向けて

北海道は、太平洋、日本海、オホーツク海の3つの海に囲まれ、流氷が接岸する最南端の地に当たります。北海道の漁業生産量は全国の1/4を占め、全国一の生産量を誇る豊かな海であります。また、港湾を利用した海上輸送は北海道と日本の他地域との貨物の90%を運んでおり、港湾は北海道の産業と生活に密接な役割を果たしております。

このように北海道は、これまで豊かな海の恵みを享受し、豊かな海の恵みとともに歩んできました。

しかし、自然環境や社会環境が変化する中、それに対応した新たな取り組みも重要となっています。

我々技術者は、豊かな海の恵みを更に良いものとして、次世代に継承することが使命と考えます。

今後は、より一層ネットワークの広がりを深め、地域に密着したローカルな課題にも目を向け、地域経済の発展に寄与する活動を行っていきます。